

演題番号：6

演題名：肉用鶏におけるカンピロバクターの保菌調査

発表者：○杉山英視、新垣貴野、仲村清崇、小田英治、銘苺愛美

発表者所属：北部食肉衛生検査所

1. はじめに

家禽の肝臓および腸内容物に食中毒菌が存在する可能性については、いくつかの報告があり、と体に肝臓片や腸内容物が付着した場合は、洗浄、消毒およびトリミング等（以下「トリミング等」）を丁寧に行う必要がある。しかし、当所管内食鳥処理場に搬入される肉用鶏の保菌状況については不明である。そこで今回、従事者に対する衛生指導に活用するため、*Campylobacter jejuni*（以下 *C. jejuni*）と *Campylobacter coli*（以下 *C. coli*）を対象として、これらの肝臓、盲腸便、さらに胆汁における保菌調査を行ったので概要を報告する。

2. 材料および方法

採材期間：平成27年11月および12月。

- (1) 1農場の40～48日齢の肉用鶏50羽それぞれから肝臓1.5g、盲腸便1g、胆汁1mlを採材し、定性試験を行った（150検体）。なお、肝臓は表面を滅菌し、臓器内部を試験に供した。
- (2) (1)の農場を含む4農場の38～80日齢の肉用鶏120羽それぞれから胆汁1mlを採材し、定性試験を行った（120検体）。
- (3) (1)で三部位すべてからカンピロバクターが検出された個体について、PCR検査により種を同定した（16羽48検体）。

(1)および(2)の定性試験は「食品衛生検査指針微生物編」に準じた。PCR検査ではタカラバイオ社のキット(RR134A)を使用した。

3. 結果

- (1) 部位別の検出率は肝臓68%(34/50)、盲腸便96%(48/50)、胆汁36%(18/50)であり、50羽すべてにおいて、三部位のいずれかから検出された。
- (2) 胆汁の検出率は38.3%(46/120)であった。
- (3) PCR検査を実施した16羽について、肝臓は15羽から *C. jejuni*、1羽から *C. coli*、盲腸便はすべてから *C. coli*（1羽は *C. jejuni* も検出）、胆汁はすべてから *C. jejuni* が検出された。

4. 考察およびまとめ

肝臓および盲腸便については、他の報告とほぼ同様に高率な汚染が確認された。また、新たに胆汁中での菌の存在が確認された。これらの検査結果から、肝臓片や腸内容物に加えて、胆汁がと体に付着した場合もトリミング等を丁寧に行うよう指導していきたい。

なお、PCR検査で同一個体でも部位により異なる種のカンピロバクターが検出されたことは興味深く、この理由については、今後検討していきたい。